

1学期終業式 校長の話（2025年7月17日）

- 皆さん、おはようございます。きょうで1学期が終わります。まずは、ここまでよくがんばりました。
- 1年生のみなさん。4月の入学から、もう3か月あまりがたちましたが、どうでしょうか。日常の様子を見ていると、北稜の生活にもずいぶん慣れてきたな、と感じています。最初は緊張していた人も、今は友だちと笑顔で話している姿が増えました。
- 2年生のみなさん。今年度前半は行事が続きましたね。万博への校外学習、そして劇団四季のミュージカル鑑賞。大勢で動くときのマナー、時間を守る力、相手を思いやる態度。大変すばらしいなあといつも思っています。
- 3年生のみなさん。修学旅行という大きな行事を、無事こなすことができました。また、ふだんの学校生活でも下級生をよく支えてくれています。普段のあいさつや、学校での生活で自然に動ける姿を見るたびに、「さすが3年生、頼もしいなあ」と私はいつも感心しています。
- どの学年にもそれぞれのカラーがあります。私はその一人ひとりに会える北稜中学校が本当に好きで、毎朝「きょうも行くのが楽しみだ」と思いながら学校に来ています。
- ここで、みなさんに質問です。4月、最初の全校朝礼で私がどんな話をしたか、覚えていますか？私は、こう言いました。「明日も来なくなる学校つくりましょう」。そのために大切にしてほしいことを2つ、お願いしました。人ととの温かいぬくもりを大切にすること。『生き抜く』よりも、みんなで助け合い『生き合う』ことを大事にすること。
- あれから約3か月半。実際どうだったでしょうか。私は今も、毎日学校に来るのが楽しめます。つまり私にとって北稜は「明日も来なくなる学校」です。では、みなさんにとってはどうですか？自分は「明日も来たい」と思っていますか？クラスの友だちは？部活動では？
- もしかすると「実はちょっとしんどい」、「もう明日行きたくない」と、嫌な思いをしている人がいるかもしれません。4月にお話しした「ぬくもり」と「生き合う」は、そのまま「自分と、隣にいる人を大切にする」ということにつながっています。
- ぬくもりとは、となりにいる人の命と気持ちに手をあてることです。朝のあいさつ、困っている友だちへの「大丈夫？」、という声かけ。ちいさな行動の一つひとつが、相手を難に扱わないというサインになります。
- そして「生き合う」。自分だけ助かれればいい、勝てばいい、ではなく、困っている人に気づいたら支え合って前に進むことです。北稜が「明日も来なくなる学校」になるかどうかは、この“気づいて支え合う力”にかかっています。
- 明日から夏休みです。学校という大きな見守りから少し離れます。だからこそ、自分の命をたいせつに、友だちの命も大切に過ごしてください。2学期、また皆さんと「明日も来なくなる北稜」で会いましょう。